

報道関係者 各位

平成24年6月27日 日本科学未来館

つながりシンポジウム「知のバトンリレー」 『ことばの未来—声としてのことばの力を探る』 平成24年7月21日(土) 18:30～20:30

日本科学未来館(略称:未来館、館長:毛利衛、所在地:東京都江東区青海)は、平成24年7月21日(土)に、つながりシンポジウム「知のバトンリレー」『ことばの未来—声としてのことばの力を探る』を開催します。

昨年3月の東日本大震災を経験し、改めて声としてのことばの力に気づいた私たち。一方、ブログやTwitterなど新たなツールを手に、私たちはこれまでにない勢いでことばを発し続けています。私たちは今、自らの声をどこまで届けられているのでしょうか。私たちは何を求めて声を発しているのでしょうか。

本年度第一回となる「ことばの未来—声としてのことばの力を探る」では、アフリカ・フランス・日本をフィールドに人類学者として活動し、人間そのものを声から見つめ続けてきた川田順造氏、内なる声を詩として発してきた佐々木幹郎氏、新たなツールから人々の声を集め発信しはじめた津田大介氏。三世代のゲストによる対話から、ことばの未来を探ります。当日は夜間特別開館となり、暗やみに浮かぶシンボル展示である地球ディスプレイ「Geo-Cosmos(ジオ・コスモス)」の下で、「ことばの未来」を語り合います。

本シンポジウムは10周年を機にスタートした「つながりプロジェクト」の一環で、本シリーズでは、人類の「総合知」としての科学の役割をさらに深めることを目指し、分野、世代を横断した知性が交流する場をつくります。本年度は、文化、社会、科学、芸術など、多彩な分野で活躍している日本の「知の巨人」たちと参加者が、同じ場と時間を共有することで、世代を超えて発せられるメッセージを、未来へとつないでいくシンポジウムを目指します。

■ 概要 ■

開催日時 平成24年7月21日(土) 18:30～20:30

場 所 日本科学未来館 1階 シンボルゾーン

定 員 250名 ※先着順

参加方法 未来館ホームページより申込み

入館料 大人 1,300円、18歳以下 600円

※夜間特別開館入館料を含みます(開催中の企画展、6階ドームシアターもご覧いただけます)

※障害者手帳所持者は当人および付き添い者1名まで無料

登壇者 川田順造(人類学者)、佐々木幹郎(詩人)、津田大介(ジャーナリスト)

※当日は夜間特別開館(18:00～21:00)となり、開催中の企画展やプラネタリウムの特別上映を行います

※当日、Ustreamでライブ中継と撮影を行います。また、記録映像を後日YouTube等で公開する場合があります

※本件に関するプレスリリースおよび写真画像は、下記未来館ホームページよりダウンロードしてご利用いただけます

URL: <http://www.miraikanjst.go.jp/press/>

一般からのお問い合わせ先	このリリースに関するお問い合わせ先
日本科学未来館 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikanjst.go.jp	日本科学未来館 事業推進課 プロモーション担当 (press@miraikanjst.go.jp) 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

[出演者プロフィール]

第一走者:川田 順造(かわだ じゅんぞう)
人類学者・神奈川大学特別招聘教授

1934年東京・深川生まれ。東京大学教養学科文化人類学専攻卒業。パリ第五大学民族学博士。文字を必要としなかった西アフリカ諸社会と日本の話芸についての多年の現地調査をふまえて、身体表現とも関連した音声表現の世界から、文字文化を逆照射してきた。アフリカ・フランス・日本の比較研究を通して、三文化間で相対化を行う「文化の三角測量」を提唱している。

<主な著作>

『曠野から－アフリカで考える』(中公文庫*)／『無文字社会の歴史』(岩波現代文庫)／『聲』(ちくま学芸文庫*)／『サバンナの音の世界』(白水社)／『口頭伝承論』上下(平凡社ライブラリー)／『コトバ・言葉・ことば』(青土社)／『文化を交差させる 人類学者の眼』(青土社)など (*絶版)

<近著>

『江戸＝東京の下町から 生きられた記憶への旅』(岩波書店)／『人間にとっての音←→ことば←→文化』(湯浅譲二との共著・洪水企画)など



第二走者:佐々木 幹郎(ささき みきろう)
詩人

1947年奈良生まれ。同志社大学文学部中退。1970年、『死者の鞭』で詩壇にデビュー。中原中也研究の第一人者としても知られる。ネパールやチベットなどアジアの都市の比較文化論、紀行論も多い。国内外で詩の朗読活動を重ね、近年は詩と音楽のコラボレーション集団「VOICE SPACE」を創設(2004年～)。震災後、津軽三味線と東北民謡を中心にした東北の「唄」の世界のフィールドワークを続けている。

<主な著作>

『中原中也』(筑摩学芸文庫*)／『蜂蜜採り』(書肆山田*)／『アジア海道紀行』(みすず書房)／『やわらかく、壊れる』(みすず書房)など (*絶版)

<近著>

『人形記－日本人の遠い夢』(淡交社)／『旅に溺れる』(岩波書店)／『田舎の日曜日』(みすず書房)／『明日』(思潮社)など



第三走者:津田 大介(つだ だいすけ)
ジャーナリスト

1973年東京生まれ。早稲田大学社会科学部卒業。大学在学中からIT・ネットコンテンツについて多数の媒体に執筆活動を行う。2006年から2008年まで文化審議会著作権分科会の専門委員を務める。Twitterを使って審議会や各種のシンポジウムの内容を実況し、人々の議論への参加を拡げる。震災後は被災地を精力的に取材、発信し続けている。

<主な著作>

『だれが「音楽」を殺すのか?』(翔泳社)／『Twitter 社会論－新たなリアルタイム・ウェブの潮流』(洋泉社)／『未来型サバイバル音楽論－USTREAM、twitterは何を変えたのか』(牧村憲一との共著・中公新書ラクレ)など

<近著>

『情報の呼吸法』(朝日出版社)／『動員の革命－ソーシャルメディアは何を変えたのか』(中公新書ラクレ)

